

家庭科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）成果

- ・クロームブックなどのＩＣＴ機器を活用し、インターネットで調べたり動画を視聴したりして、基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせることができた。

（２）課題

- ・調理単元について、家庭や栄養士と連携し、学んだことを実践に生かす工夫を継続的に行っていく必要がある。
- ・布を用いた物の製作の目的に応じた縫い方の技能面において個人差が大きい。

2 観点ごとの実態

	5 年	6 年
知識・技能	調理の知識・技能の習得に個人差はあるが、ほとんどの児童が身に付けられた。 玉止め・玉結び、なみ縫いなどの基本的な手縫いの仕方の習得に個人差が大きいが、目的に応じた縫い方を身に付けることができた。	手縫いやミシン縫いなど基礎的な技能の差が大きい。 調理実習を計画的に実施したことで、調理の知識・技能の習得を図ることができた。
思考・判断・表現	調理計画や調理の仕方について問題を見い出したり、糸の準備の仕方やそれぞれの縫い方の特徴をつかみ適正に縫うにはどうしたらよいか考えたりして取り組む児童が多い。	家庭生活の中で、自身の生活習慣について見直す活動を通して生活をより良くするための課題を見付け実践することができた。
主体的に学習に取り組む態度	初めての調理実習や裁縫などの学習に興味をもち、前向き取り組む姿が多く見られた。	衣食住の学習について興味・関心をもって活動に参加する児童が増えてきた。特に掃除や調理実習に関する分野は、意欲的に取り組むことができた。

3 課題と授業の改善策

		5 年	6 年
課題	知識・技能	調理や布を用いた製作の知識・技能の習得に個人差が大きいこと。	裁縫に関する知識・技能の習得に個人差が大きいこと。
	思考・判断・表現	習得した技能を適切に用いて、よりよい方法を考えながら取り組むこと。	自分の生活を見直し、解決に向けて努力したり工夫したりする児童を増やすこと。
	主体的に学習に取り組む態度	意欲的に学習に取り組む児童は多いが、学んだことを家庭生活に活かして実践しようとする児童が少ないこと。	衣食住の学習について学んだことを、日常生活で実践することが難しい児童が一部いること。
授業の改善策	知識・技能	調理や布を用いた製作の基礎的基本的な手順が身に付くよう、ＩＣＴ機器や動画を活用して分かりやすくポイントを示し、繰り返し練習したり教えあったりする場を設ける。 学校支援本部のボランティアに依頼して、大人の手を借りるなど少人数に１名の大人を付け個別に指導できるようにする。	技能を確実に定着させるために、繰り返し練習させたり教え合う場を設定したりする。 調理や裁縫の実習の際には学校支援本部のボランティアに依頼をし、技能の定着を図る。
	思考・判断・表現	縫い方や調理の仕方などをペアやグループで話し合う場を設定し、友達の考えや実践を参考にしながらよりよい方法を考えられるようにする。	ペアやグループなどの話し合い活動や実践報告会を設定し、友達の考えや実践を参考にしながら自分の考えを深められるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	学習したことを実生活にも生かせるよう具体的なめあてをもたせ、家庭の協力もお願いして実践が経験できるようにする。	長期休業中などの機会に保護者に協力を依頼し、調理や片付けなどの課題に取り組ませ家庭生活においての実践が経験できるようにする。

